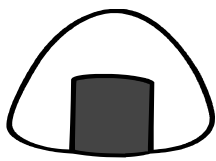


わくわく



木津川市立相楽台小学校

食育だより 4年生

平成27年7月16日

もぐもぐ



国語科「一つの花」では、戦争が人々の暮らしに与えた影響を学ぶ中で、ゆみ子が最初に覚えた言葉「一つだけだちょうだい。」から、食生活に焦点を当てて取り組みました。

この授業における食育の視点

☆戦時中の食生活を知り、生き抜くための工夫に気付くことができる。【食事の重要性】

まず、3枚の写真（ぜいたくは敵だ！・すいとん・いもがゆ）から分かることについて、班で話し合いました。

- ・あまり食べ物が無い。理由は、いもがゆにはほとんど米が入っていないし、少しの量でお腹がいっぱいになるように工夫しているから。
- ・戦時中と今の料理のちがいは、米が少なく汁物が多いことです。
- ・戦時中は、あまりご飯が食べられなくて、少しだけの材料を使う料理ということがわかった。

など



時代背景を踏まえた上で、
めあて 「一つだけよ。」と言い、ゆみ子に何でもあげるお母さんの気持ちを考えよう。

につなげました。

- ・食べ物が少ないけれど、ゆみ子にいっぱい食べてほしいから、自分が少なくてもいいと思っていた。
- ・お母さんはどんなにお腹がへっていても、自分はがまんして、ゆみ子を大事に育てていたと思う。
- ・ゆみ子がおなかをすかせているのに、食べ物が無いので、ゆみ子がかわいそうだなと思いながら、わたしていたと思う。

など気持ちを考える事ができました。

授業の振り返りでは、

戦時中は食べ物が少なく、人々が苦勞したことやそんな状況下であっても、わが子への限らない愛情を注いでいることを感じ取ることができました。また、授業後、給食を平気で残していることを反省し、食べ物を大切にしなければいけないと改めて考え、残菜が減りました。

